



新しい朝

府中市立府中第十中学校
学校だより 第6号
校長 芹澤 敏光
令和4年10月26日

校外学習

校長 芹澤 敏光

このところ朝夕はだいぶ冷え込むようになり、紅葉の便りも聞かれ秋の深まりを感じます。スポーツを始め、何か物事にエネルギーを集中して取り組むのに適した気候になりました。スポーツ庁では10月を「体力づくり強調月間」と位置付けています。コロナ禍で青少年の体力低下が懸念されていますが、体力の維持・向上は日常生活の土台となるものです。また、適度な運動、体力向上と身体の免疫力・抵抗力との間には密接な関係があることが各種の研究からも明らかになっています。コロナの感染状況は減少してきていますが、一方ではインフルエンザの感染も心配しなければならぬ時期になりました。引き続き健康には十分気を付けていきたいものです。

さて、今月は校外学習の引率で14日(金)には1年生とお台場・浅草・上野方面に、21日(金)には2年生と鎌倉へ行ってきました。昨年は浅草も鎌倉も人出はガラガラという印象でしたが、今年は外国の方も多く目にし、観光スポットに活気が戻りつつあるのを実感しました。1・2年生とも、中学校での校外学習の集大成である修学旅行での班行動の練習が目的の一つでした。予定通りにはいかず見学地を減らすことも若干見られましたが、班員で協力しながら見学地を回った経験は必ず修学旅行で生きることと思います。

最近インターネットや各種メディアで自然や文化財に関する様々な情報を容易に得ることができるので、現地に行かなくても多くのことを学ぶことができます。しかし、神社仏閣一つをとっても、その建造物がある場所に造られている意味や込められている思い、見る人を圧倒する存在感や周囲の環境も含めたたたずまいのようなものは、その場所に直接身を置いたり自分の目で直接見たりすることによってしか分からないものが必ずあります。また、同じものを見ても人によって感じ方の違いが当然ありますが、大切なのは自分の感性で受けとめることです。知的好奇心の刺激を受け、「どうしてこうなのだろう、これにはどういう意味があるのだろうか。」というように、自分の興味・関心や考えを、時間をかけて掘り下げたり広げたりすることも重要です。中学生や高校生の時期に、校外学習などでなるべく多くのヒト・モノや実社会に触れ、直接的な体験を重ねることによってその後の人生が大きく左右されることもあるかもしれません。今後も生徒一人一人が様々な体験を通して感性を磨き、豊かな人間性を培い、充実した生活を送ることを願っています。

余談ですが、今回浅草寺を巡回しているときに、ウェートリフティングでオリンピックに5回連続出場しメダリストにもなった三宅宏実さんが、浅草警察署の一日署長として特殊詐欺被害の防止などを訴えかけながら仲見世通りを練り歩いている場面に遭遇しました。警察の衣装の上からもがっちりとした体格はうかがえましたが、全体的には非常に小柄な印象でした。しかし、ひとたび競技に集中すると、あの体格で自分の体重の倍を優に超える100kg以上のバーベルを頭上に差し上げることを考えると、超一流のアスリートはやはりとてつもない身体能力を持っているのだと改めて感心しました。十中生にも自らの将来を切り拓いていくために様々な能力を養って欲しいと思います。

